



# おぼろげにうの会ニュース

発行  
平塚らいてうの会  
〒112-0002  
東京都文京区  
小石川  
5-10-20-5F  
TEL・FAX  
03-3818-8626

## 第14回通常総会ひらく

### 新しい年度をむかえ、課題が山積み

平塚らいてうの会副会長 堀江 ゆり

5月11日、第14回総会を東京で開催しました。昨年度の活動としては、前年の『青鞥』発行百周年の成果を土台に、「学び」と「協同」の年という方針のもと、上田・真田で5回、東京で3回のらいてう講座を実施したほか、特筆すべきこととして、『青鞥』原本50冊の入手、NHKのE

テレ連続企画「日本人は何を考えてきたのか」シリーズでの「女性たちは解放をめざす―平塚らいてうと市川房枝」放映が報告されました。今年度は、らいてう生誕130年、「らいてうの家」10周年、NPO法人平塚らいてうの会発足15周年という節目の年である2016年を展望した活動を、との提起がされました。

具体的には「家」のあり方を考える、「本当のらいてう」に光をあてるための研究チームをスタートさせる、内容の濃い貴重な資料「紀要」をひろめる、などの方針を確認しました。貴重なアーカイブとなる『青鞥』原本を大切に保存・管理し、会として残していくことも課題です。

「平塚らいてうの会の将来プロジェクト」案も提案され、2016年度記念行事に向けての諸準備、2014年秋のエレン・ケイ記念館（ストックホルム）写真上―総会では、今後の活動方針について提起されました。

写真下―「らいてう忌」に参加されたみなさん―ホテル前にて

（ルム）訪問計画実現のため勉強会もはじめたいなど、会や「家」の運営についての案が示されました。これについては、今後も継続して検討していくことになりました。

会の活動を維持発展させるためにも、また事務局・財政維持のためにも、会員拡大、「家」来訪者の拡大は重要課題です。「家」が完成してから8年、新たな山野草が育ち、森や庭が変化してきたという発言もありました。大事にしていきたいと思えます。

長年副会長を務められた、副会長の中野邦さんの退任を感謝をもって確認し、新任の理事も迎え、新体制がスタートしました。

## 今年度役員

- 会長・米田佐代子 副会長・折井美耶子、木村康子、堀江ゆり、杉山洋子、花岡静枝 事務局長・小林明子、理事・飯村しのぶ、井上美穂子、植草充代、小野塚歩、金輪きみ子（新）、木村見江、沓掛美知子、小池道子、小林典子、斉藤慶子、坂口久美子、佐藤実喜子、関町好子、富松裕子、藤原美津子、三留弥生、山田繁子、若尾伸子、監事・小島妙子、佐久間由美子

## 橋下徹大阪市長の人権侵害発言に抗議声明

平塚らいてうの会は、橋下大阪市長の一連の発言にたいし、「らいてうのこころざし」を継ぐ立場から黙って見過ごすことはできないと、6月6日の理事会において、声明を発表いたしました。

（4面に掲載）



2013年 らいてう忌

## 新緑の「らいてうの家」訪問と

### 『青鞥』原本見学の旅

今年の「らいてう忌」は、「家」訪問と『青鞥』原本見学ツアーでした。

参加者は総勢28名。初めての「家」訪問者が過半数で、説明にも熱が入りました。

5月26日、上田駅からバスであずまや高原「らいてうの家」に到着。さっそくペランダで心地よい風を肌を感じ、新緑を見ながら、食材豊富なお弁当にも楽しませてもらい満腹になりました。

ガラスケースに入った『青鞥』原本の置いてある展示ホールで話を伺いました。まずは米田館長から「原本の特徴について」です。

今回入手した原本は原型のまま49冊、他に6冊合本された中に欠けた1冊が含まれているので



説明する米田館長と展示ケース

50冊。大きさの異なる『青鞥』全52冊を原型のまま保存しているところを探したが見当たらなかった。(天理大学の天理図書館が原型のまま51冊を保存しているのは希有な例)。この原本には、いくつかの書き込を含む

興味深い「痕跡」が残されている。合本の表紙見返し部分に「青鞥社蔵書」の朱印が押され、青鞥社所蔵であった可能性がある。5巻6号の裏表紙に、発売禁止になったことを報じた新聞が貼り付けてあり、次の7号には「伊藤野枝氏郷里九州へかへるので八月號は休刊」という朱書きの紙片が貼り付けてある。この原本は青鞥社にもっとも近いところにあつたのではないか。

本でしか知らないらいてうさん、野枝さんが手にした『青鞥』だと思つたと少しぞくぞくしました。明治、大正の時代を息づいていた『青鞥』が、らいてうの会に還つて来たんですね。

次に、折井副会長(写真左)から展示パネル「平塚らいてうの生涯」の詳しい説明がありました。



1970年、安保廃棄のデモ行進の写真の右端の若い女性が折井さんだと聞き、驚きました。らいてうさんと一緒にデモをしていた人が説明をしてくださっていることに感激。今年の特別展示「らいてうと消費組合」に話が進みました。

戦前に、「消費組合 我らの家」を設立し、らいてうが組合長となった。現在の産直に当たる地元野菜の直売や静岡県三島の牧場からの牛乳直配なども行なった。「肉デー」「魚デー」「コロケデー」などを設けたりもした。医療組合にも関心をもち発起人に名を連ねている。折井さんは、中野にある組合病院で生まれ、病気になるたときお世話になったそうだ。

らいてうさんが戦前に、協同、自治をめざして実践したことが今の生活協同組合へと繋がっていることを知りました。

二人のお話を伺ってから、「青鞥」原本や展示をじっくりと見ました。長沼(高村)智恵子さんの描いた表紙の絵は今見ても斬新に感じます。

### 楽しかった二日目の散策

翌日の朝6時、一緒に行った友達と三人であずまや山の登山口まで歩きました。山道にはすずらんやすみれが咲き始めていました。菅平牧場まで登ると視界が広がり眺めは爽快です。遠くに見える浅間山などの山々、気持ちよい風が心地よいひとときを与えてくれました。次は「らいてうの森」を案内してもらいました。らいてうの家を建てるため杉の木を切り、そこに植林をしたそうです。少しづつ育っている森です。

10時のバスで上田へ下り、上田の街散策をしました。柳町通りでは、古布の店で、あざやかな紫色のちりめんの古布を友達が買いました。どんな女性が着ていたのかと想像しました。奥でコーヒールと杏のしそ巻きを御馳走になりました。

藤本つむぎ工房へ足を進め、機織り機を見せていただきました。上田紬のバック、着物地を40センチ買いました。このお店でもお茶とみずすしをいただきました。お店の方が先日らいてうの家に行つたと話していました。

上田の方とたくさん交流することのできた散策でした。「らいてうの家」の帰りにぜひどうぞ。

(金輪きみ子)



## 「車いす女優」

## 萩生田千津子さん来訪

「風民」の仲間たちと



元文学座で、杉村春子さんとも共演した女優の萩生田千津子さん、交通事故で「一生寝たきり」と言われたのに車いすで再起して、一人語りに挑戦、障がい者用免許もとってパートナーとともにどこへでも出かけていく姿は、NHKテレビの杉村春子記念番組でも紹介されましたが、萩生田さんとコラボする音楽集団「風民」の仲間とともに、5月25日6人でらいてうの家を訪問されました。

家の中はフラットですが玄関の上がり口だけ段差があり、急ぎよ手製のスロープ（堺から助っ人にくる山田さん製作）でお迎えしました。

萩生田さんはライフワークとして「時代を生きたいと日程を組んでこれ、遺品や展示も見たい」で「第1回はぜひらいてうを取り上げたい」。そのうちに何とミニコンサートが始まりました。萩生田さんの語り「はななきやま」に合わせてボイカルや尺八、民族楽器などのコラボです。（写真）

「いつかここでコンサートを」といえば、萩生田さんたちも「この家は気持ちいい、ここで演じた」とこだまのようなお返事でした。ウグイスもなき、ハルゼミも合唱する高原で、「らいてうさんがよんでいる」ようなひと時でした。ご著書の「私、舞台を降りない！車いす女優 萩生田千津子の世界」もいただき、図書室に備え付けました。

## 『紀要』6号 刊行へ―力作ぞろいです

今回は1月に放送されたNHKテレビ「日本人は何を考えてきたのか」シリーズの「平塚らいてうと市川房枝」で、取り上げられなかった資料や論点を紹介する特集です。奥村直史さんの力作「平塚らいてうと『15年戦争』をはじめ、資料解説として折井美耶子「らいてうの新婦人協会構想と市川房枝」と米田佐代子「らいてうと戦後の平和運動」など、必見です。他に新発見の『青鞥』原本の解説もあります。頒価700円（予定）。

## ●『紀要』購読のお願い

新しいらいてう像を現代に生かそうと始めた「平塚らいてうの紀要」。題名は堅いけれど内容は読みやすく豊富です。ぜひ読んでいただきたく、購読を訴えます。今年で6号。4号のみ1000円で他は700円です。お申し込みはらいてうの会へ。

## 『青鞥』 原本展示に参観ぞくぞく

らいてうの家では4月27～5月27日まで、会が入手した『青鞥』の原本展がおこなわれました。地元真田図書館のご厚意で展示用のガラスケース

を拝借（トラックで運搬したのは地元会員さんです）、信濃毎日新聞や週刊上田など、地元紙が大きく取り上げたこともあって、「ぜひ見たい」と参観者が続々。会企画のツアーはもとより、「谷根千」の森まゆみさんや信毎文化部長も見え、最終日には原本提供者の古書店主・篠崎さんも駆けつけて「立派な展示になって感激」と見入っていました。「つぎはどこで？」と聞かれますが「未定」です。

## 2013年度「家」オープン

4月27日、あいにくとはじまりは雪の降る寒い中でしたが、「家」がオープンしました。

東御市で活躍の歌手、小川洋代さんのコンサートとお茶会が開かれました。そして米田館長より、特別展示「青鞥」原本の詳しい解説がされました。

地元の上田・真田はじめ、県内からも大勢来館者が訪れ、賑やかなオープニングとなりました。

開館は11月4日まで、土、日、月の10時半～4時までです。（7月21日～8月末まで5時まで開いています）。

## 9・10月のイベント

らいてうの森笹刈り

日時 9月28日（土）

昔語りの会

日時 10月12日（土）  
既報の10月13日が繰り上げ

お話し 真田・山家神社宮司・押森さん



# 声 明

平塚らいてうの会では、らいてうのころざしを受け継ぐ立場から、6月6日の理事会で以下の声明を決定しました。どうぞご覧いただき、趣旨を広めてくださいますようお願いいたします。

橋下徹大阪市長は「慰安婦は必要な制度だった」「沖縄の米軍は『風俗』を活用せよ」などの暴言によって、日本軍により大きな被害を受けた元慰安婦の方々の人権回復の願いをふみにじったばかりか、すべての女性と男性の人権をも否定する発言を繰り返しました。

いま、全国各地で抗議運動が広がっています。5月22日に東京で開かれた抗議集会は、一週間で235にのぼる共催団体が名乗りを上げて開かれました。らいてうの家訪問ツアーにみえた大阪の方たちは、出発の前日、抗議活動に参加してから来た、と話してくださいました。

国際的にも、国連の拷問禁止委員会が「日本政府がこうした発言に反論するとともに、いわゆる従軍慰安婦の問題の法的責任を認め、関係者の処罰など解決へ向けた対策を直ちに取るよう」求めたほか、5人の女性ノーベル平和賞受賞者が非難声明を出すなど、批判の声が高まっています。

私たちは、今回の暴言が橋下市長個人の問題とだけでなく、安倍政権が「村山談話」見直しを公言、個人の尊厳と戦争放棄をうたった日本国憲法を「公の秩序」優先と「国防軍」創設という

方向に変えようとしていること、過去の戦争への反省を投げ捨て「慰安婦問題」解決の声に耳をふさいでいるところに根本的な問題があると憂慮しています。

平塚らいてうは戦後一貫して平和憲法を守る立場に立ち、どの国も武器を持たない平和な世界は、女性が主権者として行動することなしに実現しない、女性が「人に言われて」ではなく、「自分で考えて行動する」ことこそ、新しい社会を作り出す原動力だと訴え続けました。その精神を今こそ生かすべき時ではないでしょうか。

私たちは、橋下市長の人権侵害発言に抗議して市長辞職を求めるとともに、政府に対し「慰安婦問題」解決のため誠実に向き合うことを求めます。同時にかつてらいてうがそうしたように、日本国憲法の平和・人権条項を守り、日本をふたたび戦争への道を歩ませないために、一人ひとりが自分自身の意思を表明し行動することを、みなさんに呼びかけます。

2013年6月6日 NPO平塚らいてうの会



## 葉草園名称変更

5月14日、菅平葉草園開山式が行われました。

今年より、「葉草の森りんどう」に名称変更されました。

## 【事務局日誌】

- 4月12日 第7回理事会開催
- 4月15日 「らいてうの家」大掃除、展示準備
- 4月16～17日 展示準備
- 4月18日 今年度展示について長野県内記者発表と「青鞥」原本内覧会
- 2012年度の会計監査
- 4月24日 「らいてう関係資料」整理作業
- 4月27日 「らいてうの家」オープン 原本も展示
- 5月6日まで連休中連続オープン、以降5月27日まで原本展示
- 5月11日 第14回通常総会開催（於全労連会館）第1回理事会開催
- 5月13日 紀要第6号編集委員会
- 5月14日 菅平葉草園開山式に出席ー今年度より名称変更し「長野県薬剤師会 葉草の森りんどう」菅平葉草栽培試験地ー
- 5月26～27日 「2013年らいてう忌」新緑の「らいてうの家」訪問と「青鞥」原本見学の旅
- 6月1日 あずまや高原自治会総会に出席
- 6月3・5日 「らいてう関係資料」整理作業
- 6月3日 高野悦子さんのお別れ会に出席
- 6月6日 第2回理事会開催
- 6月8日 りいてう講座1「平塚らいてうと消費組合」らいてうがめざした消費組合運動ー講師・折井美耶子（於らいてうの家）
- 6月18日 紀要第6号編集委員会